

## 令和5年度 学校評価実施報告書

学校番号 117 学校名 千葉県立市原高等学校 課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>学校評価アンケートについて 昨年度に続き、学校評価委員会で、評価項目の文言の見直し、Formsの活用、評価・課題の分析等を積極的に行った。</p> <p>① 学校ホームページ上の学校日誌を週1回以上の更新を図り、教育活動の発信を促すことができた。閲覧数は4月から2月で327000回あり、1日平均1000人の閲覧が見られた。各学期で市高アクティブ通信を作成し、保護者や学校説明会、開かれた学校づくり委員会で配付した。</p> <p>② 課題を明確にして組織的に検討した。学校設定科目「ステップアップI」の指導計画作成、生徒相談・支援の体制充実、「成績・生活指導」の実施、地域連携の計画的実施で成果を上げた。</p> <p>③ 年3回の防災訓練や、救命救急講習等の安全教育を計画通り実施した。園芸科では特別支援学校との合同防災訓練も実施した。施設設備の点検を毎月実施した。</p> <p>④ 学校説明会を年3回、園芸科ミニ体験入学を年2回実施した。文化祭一般公開を行い、約400人の来校者があった。園芸科、福祉コースの小中学校への出前授業や、ゴルフ体験やしめ縄作り体験、図書委員会による認定こども園での絵本の読み聞かせ等の地域連携に積極的に取り組んだ。</p> <p>⑤ 生徒の欠席連絡の電子化を図った。校務分掌の見直しを行い、6分掌を4分掌に再編成した。部活動の再編成も検討している。勤務時間外の在校等時間が月45時間を超える職員が、令和4年度(4月～1月)は延べ50人であったが、令和5年度(4月～1月)は延べ28人に減少した。</p>	<p>「入学して良かった(入学させて良かった)」の項目で概ね満足の割合が、生徒85%、保護者92%となり、全体的に満足を感じている結果となった。</p> <p>① 学校ホームページについて、概ね満足が、生徒78%、保護者89%であった。一斉メールやTeamsの活用の機会を増やし、非常変災時対応、行事等の連絡、県からの通知配信など教育活動の見える化を進めることができた。中学生の閲覧数を増やす内容を検討する必要がある。</p> <p>② 地域連携アクティブスクールの設置に向け、よりきめ細やかな教育活動ができるよう体制を整えていく必要がある。中学生への説明を強化する必要がある。</p> <p>③ 施設設備の衛生面や安全面の気配り、定期的な点検について、概ね満足が、教職員95%であった。危機管理マニュアルを周知徹底するとともに、実際の緊急時に対応できるように見直しを継続する。</p> <p>④ 志願者数が減少し、十分な成果につながらなかった。学校公開や地域連携を進め、本校の魅力をより発信していく必要がある。「地域連携を積極的に進めているか」について、概ね満足が、生徒66%、保護者89%であった。生徒に各事業を地域とのつながりとして理解させていく必要がある。</p> <p>⑤ 「心身の健康管理に配慮するとともに、不祥事防止に必要な対応措置を行っている」について、概ね満足が教職員100%であった。分掌再編成による業務の見直し、業務の均衡化を一層進めていく。部活動の再編成においては、生徒の声も取り入れながら、実態に合った魅力ある活動にしていく必要がある。</p>
学習指導	<p>① 授業研究週間(1、2学期)や若手職員の研究授業(計3回)等を積極的に行い、授業力向上に努めた。授業参観者から授業担当者に感想や改善点を還元するアンケートを実施した。</p> <p>② 11月に指導主事訪問があり、指導と評価の一体化について研修することができた。学習指導計画の確実な見直しを行い、評価規準作成を行った。</p> <p>③ チームティーチングや少人数授業、ペア学習やグループ学習等積極的に授業に取り入れた。生徒の授業態度は良好で、落ち着いて授業を受ける環境が整っている。</p> <p>④ ICTを活用する授業が増加した。若手職員を中心にスマートフォンやタブレットを活用した授業が取り組まれている。</p>	<p>① 「授業内容や教え方を工夫してわかりやすい授業を展開しているか」について、概ね満足が、生徒86%、保護者79%であった。ICT推進委員会が中心となって、ICT活用の授業を一層推進していく。</p> <p>② 主体的で対話的な学びを推進し、3観点による指導と評価の意識化、より良い授業に向けた改善を進める。</p> <p>③ 「少人数授業やチームティーチングなど行いながら、きめ細やかな授業が行われている」について、概ね満足が、生徒85%であり目標値を達成した。</p> <p>④ ICTを活用した授業の研修会を実施し、授業での有効な活用方法の情報交換を推進していく。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 基本的な生活習慣の確立を目的とした毎月週1～2回の登校指導、毎時間授業中の巡回を行った。1、2学期末に「成績・生活指導」を計画し組織的指導体制を形成した。</li> <li>② 生徒指導規程の見直しを行い、頭髪・服装や、バイク許可の規則を改正した。</li> <li>③ 登校指導、交通安全指導など計画通り実施することができた。</li> <li>④ 生徒相談やセクハラ窓口の掲示、ホームページ等での周知を図った。学校生活アンケートを各学期に実施し、問題行動の早期発見に努めた。人権推進委員会により組織的に生徒支援ができる体制ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「先生方は、生徒に対して社会生活に必要なルールやマナー等の声かけを行っている」について、概ね満足が、生徒87%、保護者79%であった。</li> <li>② 生徒指導規程の見直しを進めるとともに、校則における生徒の参画を図る必要がある。</li> <li>③ ソーシャルスキルトレーニングや心のバリアフリー教育、キャリア教育と関連付けて指導していく。</li> <li>④ 支援を必要とする生徒の周知を図れるよう、組織体制の強化を図っていく。外部機関との連携を継続的に進めるようにする。</li> </ul>
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 3年生による進路報告会の実施や、介護福祉の仕事について、1年生の総合的な探究の時間や福祉コースの授業で説明会を実施した。市原商工会議所と連携して地元企業20社による企業説明会を実施した。</li> <li>② 大学教授を講師に、ソーシャルスキルトレーニングの職員研修を実施した。1年生で年3回のソーシャルスキルトレーニングの授業を実施した。</li> <li>③ 福祉コースの介護施設実習や、園芸科の地域農業をする会など実施した。市や商工会議所と連携してゴルフ場職場見学を実施した。外部進路斡旋企業との連携により、面接指導や職種体験など活発に行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「進路行事が充実しており、進路に関する情報発信や進路指導が適切に行われている」について、概ね満足が、生徒86%、保護者82%であった。地元企業や学科やコースの学びを生かした進路選択が多いため、今後も生徒に有効な情報提供ができる機会を作る必要がある。</li> <li>② ソーシャルトレーニングを年間計画の中に位置づけていく。</li> <li>③ さらに工業系の企業見学を検討している。求人票のWEB閲覧のできるシステムを導入して、生徒の活用を推進していく。今後も進路指導部と学年、担任との連携、組織的な対応を図っていく。</li> </ul>
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体育祭や文化祭等で生徒の主体的、協働的な取り組みを促すことができた。</li> <li>② 部活動の活性化を目的に、1年生の部活動体験入部期間を設けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体育祭や文化祭について、概ね満足が、生徒89%、保護者90%であった。</li> <li>② 生徒、保護者、職員のアンケート調査を行い、今後の部活動の在り方を検討、再編成を図る。</li> </ul>
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各学科、学年、コース等で多様な教育活動を実施した。地域連携、資格取得、研究発表会等に意欲的取り組んだ。</li> <li>② 園芸科や福祉コースで近隣小中学校との連携を図った。園芸科では、サツマイモの栽培交流、福祉コースでは、福祉に関する出前授業、昔遊びの伝承など実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 取り組みの成果を中学生や地域住民にPRして、本校の理解につなげる必要がある。</li> <li>② 今後も継続的に実施するため、年間計画を作成し、改善点等を学校間で共有する必要がある。</li> </ul>

(第3号様式-2)

<p>自己評価・学校関係者評価・今後の改善方策の公表について、時期や公表方法を明確に記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月中に学校ホームページで、学校評価の結果を公表する。</li> <li>・学校運営協議会、PTA総会等で、改善点を織り交ぜながら経営方針を説明する。</li> </ul>
---	--

※アンケート結果を集計して公表することで、学校評価の結果を公表したとみなすことは適当ではない。

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善策)
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市原高校だからこそできることを取り上げて、本校の特徴や魅力をPRしていくことが重要である。</li> <li>・生徒による学校評価で、すべての項目で評価結果が上がっていることはすばらしい学校運営の成果といえる。地域連携アクティブスクールとなり、市原高校の活性化につなげていくことが重要である。</li> <li>・教育活動報告や生徒の学校評価アンケートから、教職員と生徒の関係がとても良好と感じた。地域連携アクティブスクールを盛り上げてほしい。</li> <li>・いろいろな努力をしていることは感じられるが、生徒の減少が続いていることは心配なことで、存続のためのさらなる努力が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も地域と連携した教育活動を推進し、本校の特徴や魅力としていく。</li> <li>・生徒、保護者、地域への情報発信を積極的に進めていく。学校ホームページや教育活動報告を推進する。</li> <li>・本校の教育活動を中学校の生徒、保護者、教職員に積極的に説明する必要がある。本校の園芸科や、普通科の福祉コース、商業コースなどの特色を発信していく。</li> <li>・地域連携アクティブスクール設置や、大規模改修工事などわかりやすく確実な情報を発信していく。</li> </ul>
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校でタブレットを使用した学習をしている中で、高校でのICT活用の推進は重要である。学校の実態に合わせてスマートフォンの活用は評価できる。(タブレット導入を検討してほしい)</li> <li>・少人数授業、チームティーチング、グループ学習など生徒からの評価が高く学習に効果を発揮していることがいえる。</li> <li>・地域連携アクティブスクールの設置にあたり、基礎学力、社会人としてのマナーやルールの定着、充実に向けての取組を推進すべきである。</li> <li>・個々が得意な分野を生かせるような取り組みを続けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業の研修会を実施し、授業での有効な活用方法の情報交換を推進していく。タブレット導入について検討を行う。</li> <li>・授業の創意工夫をし、生徒の興味関心を高める授業展開を今後も継続していく。</li> <li>・わかりやすい授業に心がける。個々の生徒に応じたきめ細やかな指導を強化する。学校設定科目「ステップアップⅠ」を効果的に進める。</li> <li>・学科やコースにおける生徒の評価は非常に高い。自己肯定感を高めるとともに、資格取得や進路につなげていく。</li> </ul>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生方は、生徒に対して社会生活に必要なルールやマナー等の声かけを行っている」について、概ね満足が、生徒87%と昨年度と比較して11%高くなっている。教職員と生徒の信頼関係のもと指導ができていっていることがいえる。</li> <li>・様々な活動をしていることが新聞に掲載され、目に留まるが多くなったと感じている。さらに継続してほしい。</li> <li>・校則の改定など時代や生徒に配慮して取り組んでいることを評価できる。校則の見直しを広く発信するとよい。</li> <li>・安心して通える学校づくりが何より大事である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒にきめ細やかな生徒指導を実践していく。基本的な生活習慣の確立のみでなく、ソーシャルスキルトレーニングや心のバリアフリー教育を通して社会人としての資質を高めていく。</li> <li>・特色ある教育活動は広く発信し、学校のPRにつなげていく。</li> <li>・生徒の意見を校則に反映するなど、時代や生徒の実態に合わせた校則の見直しを進めていく。また、校則の改定については、生徒、保護者に説明し、周知を徹底する。</li> <li>・生徒相談、セクハラ相談の窓口を周知し、学校生活アンケートの実施、スクールカウンセラーの相談体制の強化を図る。生徒の悩みや困り感を早期発見、組織的に対応ができるようにする。</li> </ul>
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者、学校の3者の情報交換で、ミスマッチのない納得のいく進路選択を図ってほしい。</li> <li>・福祉コースの選択者が少ないと聞いた。定員を満たすようなバランスの良い選択者配置を検討してほしい。</li> <li>・社会に出る前に必要な実践的なキャリア教育が評価できる。手厚いキャリア教育ができていっている。</li> <li>・就職ありきの取組が多い。進学への対応も力を入れてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの適正や進路を考え、進路実現できるように、早い段階から計画的に進路学習に取り組む。進路ガイダンスや面談等により意識化を図る。</li> <li>・進路と結びつけたコース選択が重要である。選択コース・科目の説明会に力を入れ丁寧に生徒に説明する必要がある。</li> <li>・生徒が主体的、協働的に取り組む教育活動を強化する。総合的な探究の時間やLHRを有効活用して総合的な人間力を育てる。</li> <li>・進学に向けてのガイダンスも行っている。推薦に向けての面接や小論文指導を強化していく。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談体制について、生徒、保護者に「相談して良かった」と思われるような成果につなげてほしい。</li> <li>・保護者アンケートの回答数を増やす改善が必要である。</li> <li>・保護者アンケートは、普段学校来ない保護者にはイメージするのが難しい。対策が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進委員会が中心となり、生徒相談の体制を強化していく。スクールカウンセラーや、外部機関との連携を強化して、継続的な支援を行えるようにする。</li> <li>・今年度から保護者アンケートをFormsで実施することにした。保護者への連絡、説明が行き届かなかった。来年度の改善につなげる。</li> <li>・学校の教育活動を学校ホームページや文書等で発信していく。</li> </ul>